

牛久：学校周辺に見る自然

第40号

牛久二小，稲敷市民農園

2011年9月21日発行

＜ オクラ，トロロアオイの花のつくり ＞

9/2、牛久二小3年生は、学年の畑でハウセンカやオクラの観察をしました。よく特ちょうをとらえて、観察カードをかいていましたね。今回はそのオクラと、うちで育てている、仲間のトロロアオイの花のつくりをみてみましょう。内容は5年生理科で学習するものです。



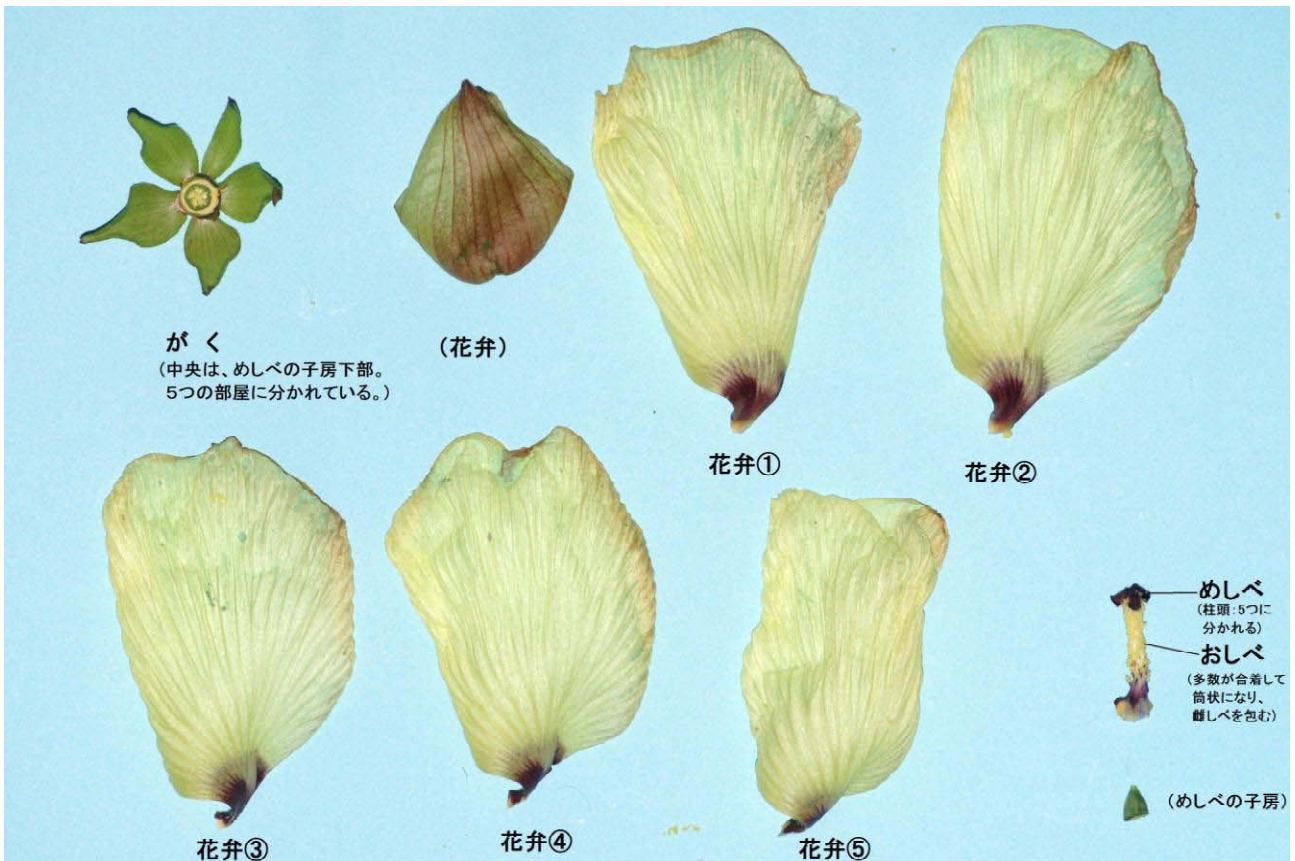
3学年畑のオクラ(左上)，果実と花(右)，葉を食害するフタトガリコヤガの幼虫(左下)。

こちらはオクラ。アフリカ原産、アオイ科の作物で、エジプトでは、2000年前に栽培の記録があるそうです。日本への導入は1873年だそうですが、私が子どものころには見かけませんでした。1年草なので、毎年、種子をまかなければなりません。熱帯では多年草となり、5～6mの高さまで育つそうです。



稲敷市民農園のトロロアオイ(左)，花と果実(右上)，葉を食害するフタトガリコヤガの幼虫(右下)。オクラによく似ており、「花オクラ」の別名もある。

こちらはよく似ていますが、オクラではありません。中国原産で、同じアオイ科のトロロアオイ。和紙を漉くのにネリとして使うために育てていますが、花もきれいですよね。私は試したことはありませんが、花は食べられ、ネリも筑波山のふもとの方では、そばのつなぎに使っているそうです。果実もオクラに似てはいますが、かたくてまず食べられないでしょうね。



トロロアオイの花の解剖(上), 雌しべの柱頭(中左), 雌しべを包む雄しべ(下左), 柱頭についた花粉(中中, 中右), 雌しべの子房断面(下右: 5部屋に分かれている)



では、今回のテーマ「花のつくり」。花をよく見ると、ハイビスカスともよく似ていますね。雄しべや雌しべ、花弁のつき方もそっくりです。あれもやはり、近い仲間なのです。どれもつくりは一緒ですが、花を解剖したトロロアオイの例でお話しします。たくさんの雄しべが合着して筒のようになり、中の雌しべを包みます。雌しべの柱頭は5つに分かれ、花粉を待ちます。花弁は5枚ですが、ときどき写真のように1枚よけいについていたりします。雌しべのつけ根の子房を切ってみると、5部屋あり、種子の赤ちゃんが入っていました。



【理科支援員 宮内】